



学級歌・学年歌をつくってみよう！

「こんなクラスにしたい！」「卒業式で自分たちの歌を歌いたい！」という子どもたちの想いを歌詞にのせ歌をつくる。「学級歌」「学年歌」は子どもたちの想いを一つの形にすることで絆を深め、豊かな学級・学年づくりにつながります。

導入の経緯

浜松市立三ヶ日西小学校の6年生が、ボーカロイド教育版を利用して学級歌を作ったという読売KODOMO新聞の記事を見た浜松市立井伊谷小学校の女子児童の「私たちも自分たちの手で“学年歌”をつくってみたい！」という願いが、担任の高林圭吾教諭を動かし、隣のクラスも巻き込んで、学年歌づくりに取り組むことに繋がりました。

実践事例内容

① 曲の構成を決める

例えば
Aメロ (8小節) + Bメロ (8小節) + サビ (8小節)
というように、曲の構成を決めます。

② 歌づくりの基礎知識を学習 (①1～2時間)

例えば「君と僕は、友達だ」といった簡単な言葉を、ボーカロイド教育版を使って2小節の歌にする活動を通して、歌づくりに必要な基礎を学習します。

1言葉の区切りに気をつけてリズムをつくる
2言葉の抑揚を手がかりにメロディラインをつくる
3伴奏に合ったメロディにする

③ 歌詞をつくる (②2～3時間)

曲の構成に合わせて「Aメロ」「Bメロ」「サビ」のグループに分かれて、それぞれにどんなクラスや学年にしたいか、想いを乗せていくテーマを考えます。

例えば
Aメロ→「現在の自分たち(友情)」
Bメロ→「夢や希望」
サビ→「これからの未来や決意」

テーマが決まったら、そこから思い浮かぶ言葉を個人で挙げていき、その言葉をもとにみんなで話し合い、歌詞に上げていきます。

歌詞づくりのポイント！
メロディをつけやすいように、文字数に注意します。1小節に8文字以内の言葉を入れるようにすると、8分音符で無理なくメロディをつくることができます。8小節ならば8文字以内の言葉を8個つなげるようにしましょう。

④ 歌詞にメロディをつける (③2時間)

「Aメロ」「Bメロ」「サビ」のグループに分かれて、それぞれ8小節のメロディをつくります。まずは、最初の1時間で以前に学習した基礎知識をもとにメロディをつくっていきます。各グループに1台ずつタブレット端末を配布し、ボーカロイド教育版を使って歌をつくり、一旦完成させます。

その後の1時間で、つくった歌をブラッシュアップさせます。ポイントは「歌いやすさ」と「伝わりやすさ」。メロディラインをなめらかにして歌いやすくしたり、くり返し(反復)を使って伝わりやすくしたり、各グループで話し合って歌に磨きをかけて工夫しました。

「ボーカロイド教育版」は歌詞を入力して音を並べ、すぐに確認できるスクレモノ！何度も聴きながら試行錯誤を繰り返して歌をつくりあげました。

メロディづくりのポイント
あらかじめ伴奏を用意しておく、メロディをつくる手がかりとなります。

⑤ 完成した曲を発表する



完成した曲はみんなで歌って発表します。既存の曲とは違い、あつという間に歌えるようになったのも、自分たちで作った曲だからこそ。学級歌や学年歌はクラスや学年の「シンボル」として、修学旅行のバスの中で歌ったり、学習発表会や卒業式などの行事で発表した

りと、思い出の1ページとして子どもたちの絆を深めていきます。井伊谷小学校では、子どもたちが修学式に1年間お世話になった担任の先生方に自分たちの歌を歌ってプレゼントしました。

先生と児童と一緒に歌う
感動動画の視聴が可能です



実践された先生の声

きっかけは1人の児童が見つけた新聞記事でした。そこには近くの小学校でボーカロイドを使って学級歌をつくった、という内容が書かれていました。児童が「学年歌をつくりたい」と言ってきたとき、子どもたちを成長させるチャンスだと思いました。子どもたちが自主的に発信する活動には、企画する力や交渉するコミュニケーション力、仲間の意見を受け入れて協力する力の育成など、社会に出た時に通じるものがいっぱい詰まっているからです。いろいろな壁にぶつかりながらも、それでも「やりたい」という熱意が学年歌に結実したのだと思います。

完成した学年歌はクラスで子どもたちが何回もくり返し歌っています。保護者からも「家でも学年歌を歌っています」という声が多く寄せられました。それだけ子どもたちはこの歌が好きなんだと感じました。ボーカロイド教育版を使っての歌づくりは、音楽が苦手な子どもでも参加することができます。全員で歌詞だけでなくメロディもつくりあげた歌だからこそ「自分たちの歌」という意識が強まったのだと思います。この歌をこれからも大切に歌い続けていってほしいと願っています。

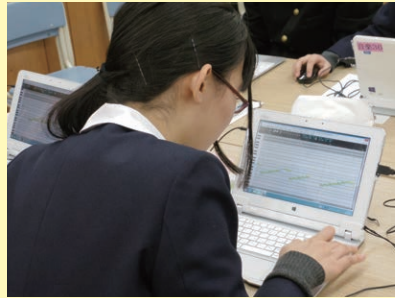
児童のアンケート結果

Q ボーカロイド教育版を使った「学年歌をつくろう」授業はいかがでしたか？

■とても楽しかった 91.5%
■まあまあ楽しかった 6.8%
■あまり楽しくなかった 1.7%
■全く楽しくなかった 0%

Q 今後も曲作りを続けたいと思いますか？

■はい 86.4%
■いいえ 13.6%



詩にメロディをつけてみよう！

国語で親しみのある詩を歌詞にして、イメージをふくらませながらメロディをつくる。他教科とのつながりをつくることで、取り組みやすく総合的な学びにつながります。

導入の経緯

2014年度よりWindowsタブレットを導入し、全教科での積極的な活用を推進している尾久八幡中学校。音楽での活用について音楽科の安達先生に何うと、「指揮のテストに向けて、指揮をしている姿を動画で撮り確認してみるという活用をしたことがある」とのこと。タブレットをもっと授業で活用するために、ボーカロイド教育版を使って音楽創作の授業を実施していただきました。

実践事例内容

国語の授業で学習した島崎藤村の詩「初恋」を題材に、グループ毎で詩から考えたイメージにメロディをつけ、1曲を完成させるというボーカロイド教育版を使用したグループ学習に取り組みました。他教科とのつながりを作ることで、取り組みやすく総合的な学びにもつながりました。

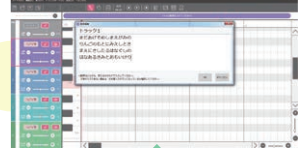
① 曲作りの基礎を学ぶ

創作の前に「曲の構成」「リズム」「伴奏の和音とメロディの関係」等、曲作りの基礎について学習。

8小節	1段落目	2段落目	3段落目
出会いと 美しい「君」への あこがれ	恋心の自覚と 恋の始まり	恋心の 高まりと成就 深い喜び	
曲調	静か	静か	盛り上がる
音域	低め C3～C4	低め C3～C4	高め F3～F4

② 歌詞を入力する

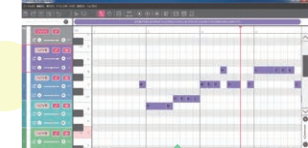
4人1グループで1人1段落づつ分担し、島崎藤村の「初恋」を入力



歌詞を入力し、詩のイメージを膨らませながら、言葉の抑揚を活かした曲づくりができる

③ メロディをつくる

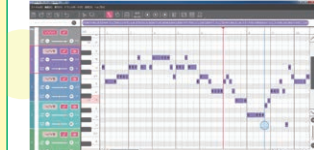
1人1段落、8小節のメロディを、用意した伴奏に合わせて作成し、グループで32小節の曲を作る



直感的にブロックを並べ、簡単操作でメロディづくりができる

④ メロディの完成

4人のメロディをつなげて1曲に。グループで意見を出し合いながら曲全体の調整を図り、ブラッシュアップして完成。



試験、修正がすぐでき、
試行錯誤を繰り返せる

⑤ 完成曲の保存と発表

最後に完成した曲を1グループずつ10グループが発表。クラスで曲審査を行い「ベスト3」の曲を決定。各クラスのベスト1はWEBに掲載し、ご家族の視聴も可能にしました。



つくった楽曲は音声ファイルで作品として保存でき、発表の場での披露やファイル共有による試験もできる

実践された先生の声

VOCALOIDは以前から知っていましたが、機械的なものであり「こんなものが出てきてしまった」というマイナスイメージを持っていました。学校の授業で使用することについて不安と心配がありましたが、創作の授業で使ってみると、感覚的にメロディを作ることができ、リズムや音の高い低いが目で見えて確認できる。そして、すぐ聴いて耳で確認することもできる。五線紙の上では困難な音楽制作がVOCALOIDを使うと可能になり、学校の

音楽の授業でとても有効なツールだと実感しました。今までの創作授業は「リコーダーでメロディを作ってみる」「手拍子でリズムを作ってみる」という活動をしてきましたが、いずれも即興的であり「行き当たりばったり」感が強いものでしたが、VOCALOIDでは、試行錯誤しながらメロディを作り、それが作品として残ること。またグループで協力し合いながら1曲を完成することができたことも、とても良かったと思います。



安達先生

ボーカロイド教育版

VOCALOID™ for Education

シングルライセンス 希望小売価格 22,000円(税込)
校内無制限ライセンス オープンプライス

ボーカロイド教育版・最低動作条件

OS | Windows 11/Windows 10/Windows 8.1
Windows 7(Service Pack1以降)
CPU | 各日本語OSの64ビット版(x64)、32ビット版(x86) に対応
Intel Atom Z3735 1.33GHz以上または同等の互換プロセッサ
RAM | 2GB以上
その他 | DVD-ROMドライブ(インストール版のみ)、オーディオデバイス
※上記の動作条件を満たしている場合でも、全てのコンピュータにおける動作を保証ものではありません。

商品・サービスについてのお問い合わせ

Smart Education System問い合わせ窓口

<https://ses.yamaha.com/rd/contact/>



ボーカロイド教育版

VOCALOID™ for Education

歌詞を
いれて

音を
ならべると

ボカロが
歌う

タブレットでプログラム歌づくり学習

SMART EDUCATION SYSTEM

by Yamaha

音楽科授業や総合学習でのICT活用 に最適！

「ボーカロイド教育版」はタブレットで直感的に「歌づくり・音楽づくり」ができるデジタル教材です。試行錯誤を重ね、楽しみながら音楽づくりができ、小学校高学年～中学～高校を対象に

「音楽科」の授業はもちろん、「学級活動の時間」「総合的な学習の時間」「特別支援学級」ほか、クロスカリキュラムとして様々な教科でご活用いただけます。

1

音楽科授業に活用できるICTツール

POINT

1 主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)を実現

作業内容を児童・生徒同士で共有・意見交換し、児童・生徒の自主性を高めながら授業を進めることができます。



POINT

2 少ない時間で全員参加型の創作授業を行うことができる

タブレットを使って授業を行うことで効率よく、また楽譜の読めない児童・生徒を含め全員に等しいレベルの指導を行うことができます。



POINT

3 授業の成果を作品として残し、振り返りを行うことができる

創った作品は、オーディオデータとして保存できます。それによって成果が形として残るため評価を行いやすく、児童・生徒もモチベーション高く学習することができます。



2

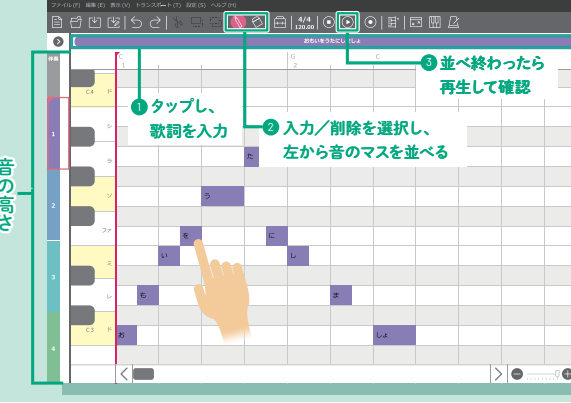
タブレット利活用の促進

POINT

1 かんたん操作

直感的に操作ができるため、ICT機器に不慣れな先生や音楽が苦手な児童・生徒も無理なく楽しみながら学習できます。また、複数のパートを重ねてハーモニーを作するなど、より高度な学習を行うこともできます。

※ウェブサイトにてチュートリアル動画があります。

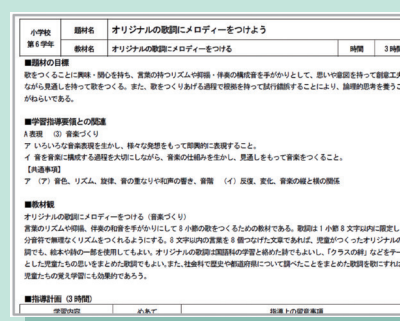


POINT

2 授業ですぐ使える

ワークシートや提示資料などがセットになった授業モデルや伴奏音源を活用して、授業をすぐに行うことができます。

※「授業モデル」及び「伴奏音源」はウェブサイト からダウンロードすることができます。

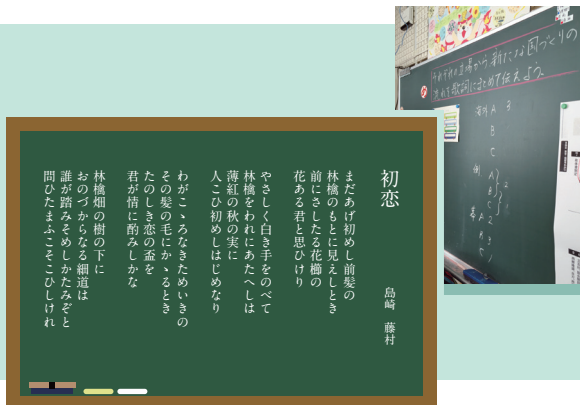


POINT

3 クロスカリキュラムにも使える

音楽以外の科目とも合同で授業を作る事ができるため、学級活動、総合学習の時間等で、タブレットの利活用が進みます。

※ウェブサイトにて事例を多数掲載しております。



Yamaha SES のウェブサイトには、チュートリアル動画や事例紹介、授業モデル、伴奏音源等参考になる資料が盛りだくさん！是非ご覧ください。

HP <https://ses.yamaha.com/>

ヤマハ SES



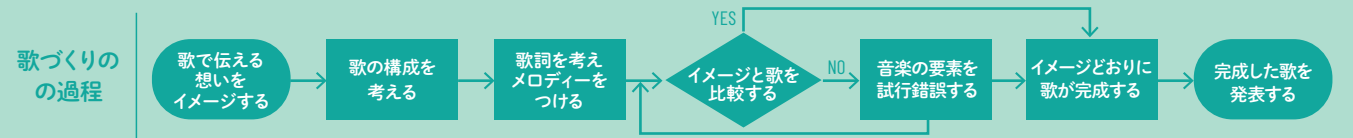
3

創作授業を通してプログラミング的思考を育む

想いを歌で表現しようと試行錯誤することが論理的思考へとつながります。

歌づくりの過程と論理的な思考

歌づくりは、音の長さ・高さ・リズムを組み合わせる等の様々な要素があり、その内容、順番などを深く考え、試行錯誤することで、より表現したかった意図を具体化できます。



歌づくり授業におけるボーカロイド教育版の活用

教育現場で従来から利用されてきたワークシートなどに加えてボーカロイド教育版を活用することで、アイデアを可視化し、何度でも試行錯誤することが容易になります。その過程を通して、意識せずとも、プログラミング的思考(論理的な思考)に触れることができるとヤマハは考えます。



● 専門家からのメッセージ



信州大学 教育学部
音楽教育コース教授
齊藤 忠彦 氏

音楽科の授業で「ボーカロイド教育版」をツールとして利用すると、限られた授業時間の中で、歌づくりの活動を気軽に取り入れることができるようになります。音楽の根源的な活動の一つともいえる自ら作って表現する喜びを味わえるようになるのです。以下に示す三つの視点から見ても、これからの時代に求められる学校教育の方向性に合致しています。

◎ プログラミング的思考の育成

近年、プログラミング教育が目され、小学校段階からプログラミング的思考(論理的思考力や創造性、問題解決能力等)を育成ことの重要性が指摘されています。「ボーカロイド教育版」を用いた歌づくりでは、最初に歌のイメージをもち、それを具現するために、音の長さや高さなどを入力し、それを聴いて修正し、試行錯誤を重ねて一つの作品を完成させていきます。このような一連の学習過程に、プログラミング的思考が重なるのです。

◎ 思考力・判断力・表現力等の育成

これからの時代の子どもたちに育成すべき資質・能力の三つの柱として、「学びに向かう力・人間性等の涵養」、「知識・理解の習得」、「思考力・判断力・表現力等の育成」があげられています。「ボーカロイド教育版」を用いた歌づくりの学習は、「思考力・判断

力・表現力等の育成」と直接的に関わります。歌づくりで試行錯誤を重ねる場面では、知識や技能といった理論的な面と、自らがもっている感性的な面を往還させながら、思考、判断し、表現力を高めていくことができます。

◎ アクティブ・ラーニングの導入

アクティブ・ラーニングとは、直訳すれば能動的な学習のことで、主体的な学び、対話的な学び等がキーワードとしてあげられています。「ボーカロイド教育版」は、個別にタブレットを用いて歌づくりができる学習環境であれば、主体的な学びを実現し、グループ一台のタブレットを用いて歌づくりを行う学習環境であれば、対話的な学びを実現します。